



二種混合（DT）予防接種説明書

（D：ジフテリア T：破傷風）



ジフテリアは、ジフテリア菌の飛まつ感染*によって起こります。国内では、発病の報告はほとんどありませんが、感染しても症状が出ない場合もあり、その人を通じて感染することがあります。38℃以上の熱、のどの痛み、犬の遠吠えのような咳が特徴です。かかると重い病気で呼吸困難、心臓や神経の麻痺を起こすことがあります。

破傷風は、土の中にいる破傷風菌が傷口から入りこむことによって感染します。破傷風菌の出す毒素が神経麻痺や筋肉の激しいけいれん、呼吸困難などを起こします。半数は軽い刺し傷からの感染です。

これらの病気を防ぐために行われるのが二種混合（DT）予防接種です。

*飛まつ感染…ウイルスや細菌が咳やくしゃみなどで細かい唾液や気道分泌物に含まれて空気中へ飛び出し、約1mの範囲で人に感染させること。

1. 接種方法について

二種混合ワクチンとは、「ジフテリアトキソイド」と「破傷風トキソイド」を混合したワクチンです。乳幼児期に接種した四種混合（または三種混合）予防接種で得られた免疫は年齢とともに低下するため、第2期として追加接種を行います。

対象年齢・接種間隔		接種回数
第2期	11歳以上13歳未満の間に、1回接種を受ける。 (標準的接種年齢：11歳)	1回

2. 免疫のでき方について

第1期の四種混合（または三種混合）予防接種を所定の回数（全4回）受けることで、ジフテリアや破傷風に対する基礎免疫ができます。基礎免疫とはその後に追加接種をしたときに、1回の注射だけでもすぐに高い免疫ができるような状態になることです。基礎免疫ができていない状態のときに1回だけ接種をしても免疫はつきません。乳幼児期にきちんと予防接種を受けて基礎免疫をつけておくことが重要です。

【注意】第1期の四種混合（または三種混合）予防接種を所定の回数（全4回）受けていない場合は、ジフテリアと破傷風の免疫をつけるため、以下のように接種することが望ましいとされています。ただし、二種混合の2回目以降の接種費用は自己負担であり、接種を強制するものではありませんので、かかりつけの医師にご相談ください。

これまでに四種混合（または三種混合）を受けた回数に応じた二種混合の接種方法	
<ul style="list-style-type: none"> 全4回の接種を受けている 3回だけ接種を受けている 	通常どおり、第2期として二種混合の接種を1回受ければ問題ありません。
<ul style="list-style-type: none"> 2回だけ接種を受けている 1回だけ接種を受けている まったく受けていない 	二種混合の接種を1回受ける。その後、3週間から8週間の間隔をあけて、2回目の接種を受ける。さらに12か月から18か月の間隔をあけて、3回目の接種を受けることが望ましいとされています（ただし、2回目および3回目の接種費用は自己負担となります）。

3. 接種後の経過と副反応

接種後の過ごし方について詳しくは裏面をご覧ください。主な副反応は、接種部位が赤くなったり、腫れ、しこりなどの局所的な反応です。また、発熱などの全身反応がみられることがありますが、いずれも一時的なもので2～3日で治ります。重篤な反応はほとんど見られませんが、接種後、腫れが目立つときなどは医師にご相談ください。まれに重い副反応として、ショック・アナフィラキシー様症状（じんましん、呼吸困難など）が認められています。

4. 予防接種健康被害救済制度について

万が一、二種混合予防接種による重篤な健康被害が発生し、被害者からの健康被害救済に関する請求について、厚生労働省が因果関係を認定した場合、国の定める医療費、医療手当等の給付を受けることができます。



宇都宮市保健所 保健予防課
028(626)1114

裏面はお読みになりましたか？
不明な点は接種前に医師に
ご確認、ご相談ください。



予防接種を受ける前にお読みください



予防接種は、感染症にかかることを防いだり、かかった時の症状を軽減したり、病気がまん延することを防ぐために行なわれます。

赤ちゃんがおなかの中にいる間におかあさんからもらった免疫力（病気から体を守る力）は、生後数か月から1年くらいで自然に失われていきます。そのため、その後は子ども自身で免疫をつくって病気を予防する必要があります。その助けとなるのが予防接種です。

予防接種を受ける前には、予防接種の特徴や有効性、副反応などをきちんと理解することが大切です。予防接種を記入する前に、この説明書をお読みの上、不明な点などは接種前に医師に相談しましょう。

☆ 予防接種のきほん ☆

1. 予防接種を受けることができないのはどんなとき？

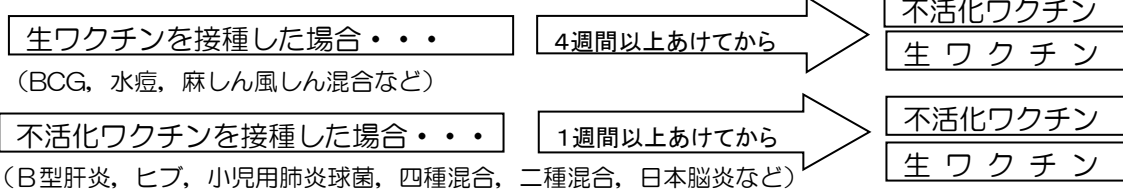
予防接種は、体調の良いときに受けるのが原則です。下記のいずれかにあてはまる場合は接種できません。

- 1) 明らかに熱がある（一般的には37.5℃以上）
- 2) ひどい下痢をしている
- 3) 重い急性の病気にかかっている
- 4) その日に受けるワクチン、またはワクチンに含まれている成分でアナフィラキシーショックを起こしたことがある（アナフィラキシーショックとは接種後30分以内に蕁麻疹などの皮膚症状や、腹痛や嘔吐などの消化器症状、そして息苦しさなどの呼吸器症状を呈します。）
- 5) BCG接種の場合、予防接種や外傷などによるケロイドが認められる
- 6) BCG接種の場合、結核にかかったことがある
- 7) 水痘予防接種の場合、水痘にかかったことがある。
- 8) 麻しん（はしか）、風しん、おたふくかぜ、水痘（みずぼうそう）、などの感染症にかかり治ってから4週間以上経っていない場合や突発性発疹、手足口病などにかかり治ってから2週間以上経っていない場合
- 9) 子宮頸がん予防接種対象者の女性で、妊娠している又はその可能性がある場合
- 10) その他、医師の判断で不相当と判断された場合

2. 予防接種の間隔について

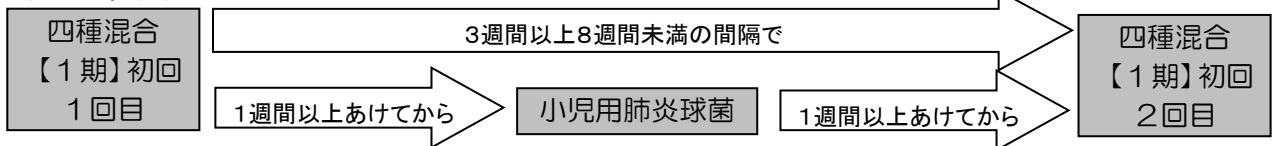
予防接種を受けてから次の予防接種を受けるまでに一定の期間が必要になります。接種したワクチンの種類によってその間隔が異なりますのでご注意ください。

1) 異なる種類のワクチンを接種する場合



2) 同じワクチンを複数回接種する間に、別のワクチンを受ける場合

<例> 四種混合ワクチン

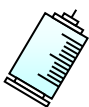


※ B型肝炎、ヒブ、小児用肺炎球菌、四種混合、水痘、日本脳炎などは同じ種類のワクチンを複数回接種します。確実な免疫をつけるために、決められた接種間隔で受けましょう。

3. 予防接種後の過ごし方

接種後に副反応がでることがありますので、下記の点に気をつけましょう。

- 1) 接種後30分くらいは接種した医療機関で子どもの様子を観察するか、かかりつけの医師とすぐに連絡がとれるようにしておきましょう。急な副反応はこの間に起こることがあります。
- 2) 接種した日は、普段どおりの生活でかまいません。ただし、はげしい運動は避けましょう。
- 3) 接種した日の入浴はかまいませんが、接種部位を強くこするのは避けましょう。
- 4) 生ワクチン（BCG、水痘、麻しん風しん混合など）は接種後4週間、不活化ワクチン（B型肝炎、ヒブ、小児用肺炎球菌、四種混合、二種混合、日本脳炎など）は接種後1週間、副反応の出現に注意しましょう。
- 5) 予防接種後に接種部位のひどい腫れ、高熱や麻痺などの重篤な症状が現れた場合、医師の診察を受けた後に保健所保健予防課（Tel.626-1114）までご連絡ください。



本日受ける予防接種の特徴や副反応などは、表面に記載されています。
接種を受ける前に必ずお読みください。

